

人間文化研究機構の情報関連事業第三期後半における基本方針

令和元年7月17日

発信センター運営委員会決定

1. 基本目標

第三期後半における人間文化研究機構の情報関連事業について、第四期におけるあり方を見据え、その基本目標を以下の通り定める。

- ① 機構を構成する各機関が果たすべき大学共同利用の拠点としての役割を促進する存在として、機構の事業を位置付ける。
 - ・これにより、各機関のミッションに沿った情報の提供を実現し、機関間の連携の促進などこれまで以上に実質的な事業展開を図る。
- ② 各機関が持つ研究資源や知識の連携により、新たな研究データの構築、それらの効果的な運用や長期保存のための環境整備を進める。
 - ・これにより、人文学の研究に欠かすことのできない情報基盤を国内外に提供し、日本における、もしくは日本を対象とする人文学のより一層の高度化を推し進める。
- ③ 現行の高度連携事業（nihuINT 事業）が担うシステム・事業を展開しつつ、各機関が持つ研究資源の利活用をさらに促進するための役割・機能を検討する。
 - ・これにより、より効率的で筋肉質なシステムとデータの提供が可能となるとともに、シンプルでユーザの要望に即したデータインフラストラクチャを構築する。

上記の目標に沿って、適切に nihuINT 事業を展開するために、相互に連携する機関の各研究分野が対象とするデータベース・研究資源・研究手法の特性にしたがった nihuINT 事業の区分化を検討する。

〈区分の例〉

- ・人文情報基盤（人間文化の研究で共通に用いられるもの）
- ・日本資料情報基盤（日本を対象とした人間文化の研究に用いられるもの）
- ・地域資料情報基盤（海外を対象とした人間文化の研究に用いられるもの）

2. 基本目標の実現—今後の情報関連事業の枠組み

- ① nihuINT を基礎とする高度連携事業（nihuINT 事業）の展開
 - 6 機関のデータベースを連携させ、外部とのデータ授受を実現するシステムとしての nihuINT の、より高度な活用を図り、その活用実績を高める。
 - nihuINT の利用の質を向上させる。
- ② データベースの活用深度を深めるデータインフラ構築
 - 網羅性や専門性の高い基盤となる研究データ（人文学諸分野の目録・画像・テキスト・音声・動画などの多様な研究資源を用いたデータ構築やデータベース連携の基礎となる辞書などの知識ベース等）の構築と活用環境の研究開発を推進する。
 - 各機関が所蔵するデータの相互補完やリンクにより、データの活用深度を深める。
 - 他機関の研究資源や設備、研究者の技術や知識を用いて、研究資源を連携させる仕組みを構築し、新たな研究データの構築や活用を進める。
- ③ 外部との連携を前提としたデータ授受の実現
 - nihuINT 事業を機構外にも開き、拠点となる他機関・大学や個人とのデータ連携を推進する。

- ④ 資源連携のため各機関の研究データの連携を新たに検討する。
 - 基本目標にのっとり、資料・研究の実情に即した情報のまとまりを見出し、相互連携を促進する事業区分に整理する。

3. 事業内容

- ① 第三期 nihuINT 事業のさらなる高度展開
 - nihuINT 事業を柱として、グローバル・リポジトリ、国際学術リンク集の構築などの事業を積極的に推進し、データインフラの拠点としての評価の向上を図る。
 - nihuINT 事業の充実を図りつつ、既存のシステムの運用・保守を継続する。
 - 機構外の拠点となる他機関・大学等との連携を更に進め、研究情報の相互利用の範囲を拡大する。
- ② 第四期への工程を策定
 - 次期システムの運用環境について、各種クラウド環境の活用等、技術面・運用面を検討・検証し、これに対応した各機関データベースの連携環境について総合的に検討する。
 - この検討結果を踏まえ、次期システムの運用について方法・手順の整理を行い、次期システムへの更新を実施する。
 - 既存の nihuINT の機能について、機関との調整や利用者への対応を行う。
- ③ 第四期事業の環境整備
 - 基本方針の具体化を図るため、技術面・運用面での実現の可能性を検討し、基盤データ・ツール・システム等の試作および提案を行う。
 - 基盤事業や統括機能の実施体制、予算規模、事業の提案方法について調整する。
 - 国内外の諸大学や公共拠点等との幅広い連携を推進し、データインフラ拠点としての実績を高める。
 - 研究会等を開催し国内外の研究者コミュニティとの連携を進めると共に、政策や他機関の情報を収集する。
 - 外部のデータやサービスとの連携を進め、利用者の便宜を高める。

4. 事業の意義

- ① 人文機構のデータインフラの基盤となる nihuINT 事業
 - nihuINT 事業で構築したシステムによる機能を効果的に運用することにより、将来にわたり大学共同利用機関法人として大学および関連機関の様々なデータ構築・その活用研究のための有益な中核としての役割を果たす。
- ② 幅広い利用者への情報提供を実現する人文学のデータインフラ構築
 - 大学および関連機関のみならず、国内外に開放された nihuINT 事業は、人文学に関わる専門的な領域から一般的な領域にわたる多様な情報を提供する。これにより、情報基盤からその人文学的な活用までを総合的にカバーする日本の人文学研究・文化のデータインフラとしての役割を果たす。

以上